

# ちば里山新聞

(第10・11合併号)

編集 発行 ちば里山センター  
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148  
 電話 0438-62-8895  
 題字 倉島 貴浩  
 (ワークホーム里山の仲間たち)

## 里山の暮らしを指標する生物多様性



生き物の豊かな環境を守るため、日本では新・生物多様性国家戦略をはじめ、その動きが活発になっています。

千葉県でも平成18年に(仮称)生物多様性戦略専門委員会を設置し、検討を始めました。

専門委員会会長である東京大学大学院教授大澤雅彦氏に生物多様性について寄稿してもらいました。



東京大学大学院教授 大澤雅彦氏

1992年にリオデジャネイロでの環境と開発に関する国連会議で採択された生物多様性条約では、締約国は生物多様性国家戦略を策定することが義務付けられております。日本は1995年に「多様な生物との共生をめざして・生物多様性国家戦略」を出版しました。その後2002年に改訂され「新・生物多様性国家戦略」が現行のものです。現在、2度目の改訂の準備作業に入っています。それと並行して、千葉県では全国に先駆け昨年10月、生物多様性ちば県戦略の策定をめざして、専門委員会を設置し準備が始まりました。また、その戦略に県民の意見を取り入れるべく、県全土で20回ものタウンミーティングが行われたので、皆さんもその進展を身近に感じておられると思います。

千葉県は、沖縄県とともに高い山がなく、ブナ林がない日本でただ2つの県です。環境庁(当時)が調査した植生自然度という人間の影響が植物群落にどの程度及んでいるかを計る物差しでも、千葉県はもっとも自然性が高い自然度10(自然草原)と9(自然林)をあわせて県土のわずか2.1%であり、全国レベルでの22.8%(2002年では19.0%)と較べるとわずか十分の一です。それに対して、圧倒的に多いのが農耕地(水田・畑地)です。全国レベルでは22.7%(データは1994年)に対し、千葉県では49.5%と県土の半分を占めます。その後、農耕地はさらに減っているはずですが、それでも千葉県では農業景観が圧倒的な面積を占めていることに大きな特徴があります。

新・生物多様性国家戦略によると、何らかの意味で絶滅の恐れがある種のおよそ半分は、里山のようなむしろ人手が入ったところに生育していると述べています。その意味では、千葉県はむしろこうした里山の希少種ないし絶滅危惧種の宝庫ともいえます。千葉県立中央博物館の平成15年度特別展「野の花・今昔」では、浮世絵や昔の写真によって、かつては下総には広大な草原が広がっており、そこに生育していたオキナグサ、キキョウ、タチフウウロ、ツリガネニンジンなど多くの草原種が現在では森林への遷移の進行や都市化などの結果、希少種になってしまったと述べられています。

現在、県立美術館で開催されている篠崎輝夫展では、篠崎さんが成田市に在住されていたこともあって、新勝寺の絵馬を題材に、馬の煮えたぎるような血潮を思わせる赤を基調とする力強い心象風景を描いた迫力のある絵がみられます。そこで同時に展示されている成田市の関連展示には、江戸期の成田の繁栄ぶりを示す興味深い絵図や明治・大正の写真も展示されています。そのうちで、私が興味をもったのは、成田詣でのための古い1枚の案内絵図です。この絵図は「成田 香取 鹿嶋 下総道中細見記(写真1)」と題されており、当時、江戸の切絵図出版で有名な麴町六丁目尾張屋清七が版元となって出したものです。作者は八雲樓重造圖とあります。現在の隅田川上空あ



写真1 成田 香取 鹿嶋 下総道中細見記



写真2 下総小金中野牧跡(野馬土手)

たりから東を俯瞰した絵地図で、17世紀中ごろのものようです。利根川の東遷は、まだなされておらず、現在の江戸川は利根川と記されています。隅田川には下流から永代橋、新大橋、両国橋、東橋、千住とすでに5つも橋が架かっているのに、江戸川(当時の利根川)には一本もありません。矢切の渡しのように渡し舟だったのでしょう。私の目を引いたのは、小金の東北あたりに大きな長方形の土手のような枠組みが描かれていることです。東側には3つのゲートのようなものがあり、長方形の真ん中北寄りに下が石垣になった櫓のようなものがあります。北西に一箇所、道が入り込んでおり、南西側は一部開いています。よくみると脇に「御駒止場」と記されており、間違いなく牧の馬込(捕込)です。そう思ってよくみると小さな草や木々と思っただのは、馬が描き込まれていることがわかりました。下総台地の当時の広大な牧の様子が空中から撮った斜め写真でみるように描かれている貴重な絵図です。これまで話には

聞いていましたが、当時の広大な牧の様子が実感としてよくわかります。国府台、真間、中山寺、金井、白井、大モリ、布施、長崎、前シマ、小金、松戸などの点在する集落で取り巻かれる広大な範囲が牧ということになります。

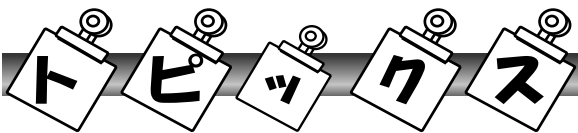
現在、下総台地のあちこちに断片として残るこれら江戸幕府の牧跡は「下総小金中野牧跡(写真2)」として2006年、国指定の史跡になりました。私の勤務地に近い柏の流通経済大学附属高校のうらにも堀と土手がよく残っている部分があり、現在ではシラカシ、ケヤキなどの巨木が生育した貴重な極相林の断片となっています。千葉市にも野馬土手の痕跡はすいぶんありましたが、開発で消えてしまい、最近ほとんどみません。上で述べた消えていく野の花の多くは、この牧に生えていた植物が多いのです。

谷津田とそれを取り巻く斜面林から構成される下総台地の里山では、多くの希少種は、伝統的な農業地帯の畦道、林縁などにみられます。また、狭い谷津田では斜面林が茂りすぎると田に日陰を作るので、刈上げ場と呼ばれる刈り取り草地を作ることが田の耕作者の暗黙の権利になっていました。このように伝統的な農業形態が維持され、毎年草刈が行われているところでは、これらの希少種が連続と生き残ってきたのです。これらの草原性の種は、少なくとも江戸時代から続くこうした牧に生育していた明るい草原に生える植物なのです。

国際的な生物多様性条約の締約国ですから、その約束事を果たすのはもちろん大切ですが、私たち自身の歴史から現在の生活を見つめなおしたとき、こうした人間活動と結びついた植物が不注意な開発で失われてしまわないように守っていくことは、自然の生活文化といえるのではないのでしょうか。池や沼の水が汚濁して、水草が消えてしまったり、身近なスギ林の林床にあったクマガイソウや雑木林の林床にあったカタクリが消えてしまったり、台地の縁に黒々とした影を落としていた斜面のスタジイやタブノキの森がいつの間にか消えていたりするのは、限られた自然知覚能力しか持たない人間にとっては気付くことが遅れたり、知覚できなかつたりするわれわれの生活を守ってくれていた身近な自然の喪失を指標しているのとらえることもできます。

## ～ 好評 ～

生物多様性といえますと、どうしても、生き物のことだけに目が行きがちです。しかし、その生活の場がなければ、生物多様性を守ることはできません。昔ながらの人々の暮らしの中にはその場がありましたが、文明が進んだ今、その暮らしに戻ることはできないでしょう。その場として我々が管理・活動している里山が重要になっていくことでしょう。その想いをとても強くしました。



## ～ちば里山センターの出来事～

**晩秋の里山で古道散策** 11月23日(木)、「アルカディアの会」主催、「晩秋の里山で古道散策」が行われ、ちば里山センターはその支援を行いました。参加者、スタッフ合わせて約30名参加し、飯高神社や妙福寺などの貴重な文化遺産を見学しながら、晩秋の里山の自然を満喫しました。



**里山と都会をつなぐ講座** 12月～1月にかけて、「豊富どんぐりの森」の活動地、船橋市豊富町の雑木林および船橋県民の森で「里山と都会をつなぐ講座(実施:ふなばしネイチャーゲームの会)(全4回)」が開催され、ちば里山センターは生き物の観察などの支援を行いました。各回の参加者、スタッフは合わせて30数名で、「宝さがし」や「音いくつ」などのゲーム、森の清掃、スターモールなどの工作、自然観察など楽しい催しを行いました。



**里山一日体験 自然観察会** 12月16日(土)、四街道市の里山において「里山一日体験自然観察会」(企画・運営:千葉県自然観察指導員協議会)が開かれ、参加者スタッフ合わせて80数名の方が参加しました。ちば里山センターもそれを支援しに行きました。自然豊かな四街道の里山で水質を見てみたり、植物や動物の観察を行ったり、史跡の見学を行ったりしました。自然と史跡がマッチした素晴らしい里山を体験できました。



**技術研修1(刈払機)** 1月20日(土)、船橋市において、東葛飾農林振興センターとの共催で刈払機の技術研修を行いました。今回の研修は「労働安全衛生特別教育等修了証(刈払機取扱作業教育)」という資格の取得となり、参加者は真剣そのものです。午前中、千葉県林業サービスセンター木村正敏氏による安全について講義の後、午後は刈払機のメンテナンスを中心に実習を行いました。参加者全員研修を終了し、資格を取得しました。県内各地の里山整備で活躍されることを期待します。

**技術研修2(チェーンソー)** 1月27日(土)、成田市においてチェーンソーの技術研修を行いました。午前中、千葉県林業サービスセンター木村正敏氏による安全について講義ならびにチェーンソーのメンテナンスの後、午後から間伐作業に入りました。間伐作業は人の何倍、何十倍もの大きさ、重さのある木を倒す作業なので、ひとつやり方を間違えると大きな事故につながりますので、会員の皆さんも安全には細心の注意を払い、里山の整備を行いましょ。



**技術研修3(法律研修・刃物を研ぐ研修会)** 3月4日(日)、佐倉市において、法律研修・刃物を研ぐ研修会を行いました。午前、県の担当職員による森林法、農地法の講義を行い、午後、(有)正次郎鋏刃物工芸 貳代目 正次郎 石塚洋一郎氏による刃物研ぎの研修を行いました。刃物研ぎの研修ではプロの行い方に参加者全員、見入っていました。また、法律研修も後日、参加者から質問が寄せられました。

**韓国の森林・里山研究者、千葉の里山を視察** 1月19日(金)~23日(火)、韓国の研究者よりなる「(社)生命の森のマウルスプ委員会」の皆さんが千葉の里山を視察されました。韓国でも里山が荒廃しつつあることから、「韓国におけるこれからのマウルスプ(伝統の森)をどのようにするかという運動方向を探る」ため、市民参加の里山整備活動の状況などを熱心に視察されました。毎日ホテルに帰着後、訪問したことについて整理をしながら討論会を開き、「里山の活動をしている皆様に本当に感動した。」「大変勉強になった。」など意見が出され、里山活動は日本が一歩進んでいるとの感想があがっていたそうです。



### 「企業の森林(もり)づくりの促進に向けて」シンポジウム開催

2月21日(水)、企業の方に里山や森林の整備・保全活動への参加を促進するため、『「企業の森林(もり)づくり活動の促進に向けて」シンポジウム』(主催:林野庁、(社)国土緑化推進機構)が開催されました。ちば里山センターも県みどり推進課の方と出席し、各企業や自治体の相談を受けました。シンポジウムでは東京農業大学宮林茂幸教授の基調講演後、パネリストとして、みどり推進課土屋勝夫緑化支援室長が県内で企業の方が里山整備活動に参加できるように、ちば里山センターをはじめとする里山整備のための組織・制度などがあることを講演しました。千葉県は里山整備のための組織・制度が先進的なことから、参加者は熱心に聴講していました。



2月10日(土)~24日(土)の3回にわたり、成田市において、「みんなで楽しく

里山活動」と銘打った里山整備の講習会(企画・運営:ちば里山センター)を行いました。1回目は森の仕組みや植物の調べ方の講習を受けた後、3つの班に分かれて、調査、目標とする森の設計図作成、2回目は機材の使い方の研修、森の整備、3回目は2回目に引き続いて、機材の使い方の研修、森の整備の後、キノコの植菌を行いました。初めての方が多いいにもかかわらず、各3班とも素晴らしい設計図を作成し、機材の使い方の研修では、チェーンソーで上手に間伐された方もおりました。そうして、鬱蒼とした森から風通しのよい明るい森に





変わりました。シンボルツリーとしたヤマザクラの大木もさらに生長し、今年も、きれいな花を咲かせることでしょう。また、植菌をしたほど木を記念に持って帰っていただきました。(キノコは来年秋のお楽しみ!) 講習会后、「里山整備の具体的なポイントをフィールドと机上でお教え頂き、大変勉強になった。」「里山が整備されてゆくプロセスを確かめることができ理解が深まった。」「里山に対する同じ想いの方々と知り合いになれ、いろいろな話を聞くことができ大変有意義であった。」

など多くの感想が寄せられました。センターではこの後も引き続き、今講習会の会場となりました森で、参加者の皆さんと里山活動を行っていきたくと考えております。



### みつけよう里山に新たな生きがいを! (県民と企業が進める里山活動) 第1回里山活動事例発表大会



3月10日(土)、第1回里山活動事例発表大会が行われ、里山活動団体や里山に関心のある一般の方など150名



の方が参加しました。午前は日本大学大学院教授糸山浩司氏が「千葉の里山を再生するために」という記念講演を行い、ちば里山センターが日頃から行っている業務が里山の再生にとっても重要であることを強く認識しました。午後は熱心に里山活動を行っている6つの団体・企業がそれぞれ、個性を生かした特徴ある活動発表を行いました。また、講演・発表の合間にポスターセッションが行われ、県内各地から集まった

団体・企業などが交流を深めておりました。今後もこうした機会を設け、一般の方に里山活動への理解を深めてもらったり、交流や意見交換などをしていったりできればと思っております。



## 資格紹介 ~自然観察指導員~

里山活動に関連する資格はいくつかあります。今回はそのひとつ、自然観察指導員という資格を当会正会員である千葉県自然観察指導員協議会の高木純一氏に紹介していただきました。

私たち自然観察指導員にとって、里山は観察会を行う場であると共に、日々の研鑽の場でもあります。では、自然観察指導員とは、どんなことをしているか、その実態をお知らせしようと思います。

最近の世界自然遺産地域等を訪れると、ネイチャーガイドという自然解説を生業とした方々のお世話になる機会が多くなりました。このネイチャーガイドと、私たち自然観察指導員は似て非なるものです。自然観察指導員とは、財団法人日本自然保護協会(NACS-J)の登録ボランティアであり仕事ではありません。特別な資格でもありません。自然観察会を通じて、自然の仕組みの面白さや不思議さ、自然の大切さを伝え、広く一般の方々に自然と人との関わりを理解して貰うための橋渡しをしているのです。

自然観察指導員に登録するには、NACS-Jが実施する講習会を受講する必要があります。千葉県では昨年10月20日~22日、君津市の清和県民の森で講習会が開催され、新たに60名の指導員が生まれました。NACS-Jの講習会は1978年から始まり、今回で388回目を迎え、受講者数は既に約22,000人を超えています。これら自然観察指導員は、地域毎に協議会を組織する等して全国で自然観察活動を展開しています。

千葉県自然観察指導員協議会(自然観察ちば)は1983年に大房岬で開催された県内第1回目の自然観察指導員講習会の受講者を中心に設立されました。以後、清和県民の森等で概ね2年毎に開催される講習会を支援しています。また、県内各地で様々な活動をしています。毎月第2日曜日に千葉市土気の昭和の森で行っている連続自然観察会は、12月10日で180回目となります。県内の小学校に指導員を派遣して自然観察実習のお手伝いをしている小学校自然観察支援ネットワーク(SSSN)や、資質向上を目的に専門家を招いた各種の研修会等を開催しています。会員数は2007年3月15日現在で356名を数え、会員各々の感性や考え方を大切に、本音で話し合い、また互いに学び合い、サポートし合っています。

私たちが自然観察会を開く際、生き物の名前を教えて欲しいと言われる方々を非常に多くお見受けします。しかし、基本的に私たち自然観察指導員は、生き物の名前をお教え致しません。その代わりに、私たちは五感を使った自然の見方や、自然との付き合い方のエッセンスをお伝えします。所詮、名前は誰か人が付けた物、それよりも自然の面白さや不思議さを、もっと一杯知って頂きたいと、私たちは願って止みません。





# 会員団体紹介

## 松戸里やま応援団



2005年度講座の「囲いやまの森」

松戸市内の樹林地が年々減少していく一方、その所有者も維持管理に困っています。市民に市内の樹林地がおかれた実状を知ってもらうとともに、実際に樹林地の維持管理に取り組む人材を育てることにより、緑の保全・育成を推進していきたいと考えて、「里やまボランティア入門講座」が開設されました。

講座は、平成15年度に市長の諮問機関である緑推進委員会がみどりと花の課との共催で試行し、良好な成果が得られたことから、「緑のネットワーク・まつど」など樹林地保全活動団体、市民活動の中間支援拠点である「松戸まちづくり交流室テント小屋」とみどりと花の課の協働による「里やま講座プロジェクト」として、継続して実施しています。

松戸では新しい形のパートナーシップ事業スタイルです。プログラムは、都市型の樹林地保全の特異性に配慮し、すべてオリジナルで作成し、毎回少しずつリファインされています。

平成18年度までに4回開講しており、講座修了者のおよそ

8割は実際の樹林地保全活動に入っております。

第1期の講座修了者は、受講後に「松戸里やま応援団」を自発的に発足させ、八ヶ崎の森の手入れを定期的に行っています。第2期は「囲いやま森の会」を発足し、囲いやまの森をフィールドに活動を行っています。第3期は「三樹の会」を発足し、三吉の森フィールドで活動を開始しています。第4期は「四季の会」を発足し、活動準備を始めています。このように、講座は知識として樹林地について学ぶのではなく、講座で得た知識を実際の活動につなげていくことを主眼として実施しています。

### 松戸里やま応援団グループ

年度	名称	フィールド	会員数
15	松戸里やま応援団	八ヶ崎の森	25名
16	囲いやま森の会	囲いやまの森	21名
17	三樹の会	三吉の森	12名
18	四季の会	未定	15名

松戸の金ヶ作あたりは「小金牧」と呼ばれて、馬

の放牧や将軍家の鹿狩りが行なわれていました。江戸時代には炭の原料となるクヌギなどを育て、質のよい木炭の生産地としても有名でした。今では開発が進み、落葉や害虫・日照問題など近隣住民とのトラブルや維持管理作業に負担がかかるため、里やまボランティアが手入れ作業に協力してくれることは有難いことと評価されています。

里やま活動を開始するにあたり、①民有地であるため地権者の了解をいただくことから開始できます。②ボランティア活動中の様々な事故によるケガを補償する保険に加入します。③不法投棄ゴミが散乱している場合が多いので、清掃活動を行い、気持ちのよい森にします。④森の中の通路を整備し、季節の移り変わりを観て植生や虫などの観察ができるようにします。⑤樹木調査を行い森全体の植生を記録し、どんな森にしてゆくかを検討します。⑥皆で集まる広場を探し、その周辺から整備を開始します。⑦自然観察会・クラフトづくり・木に名札付けイベントや芋煮会などのお楽しみ会を開催して仲間と歓談します。(文：深野靖明)

50件登録!

## 里山情報バンクの紹介

活動団体募集中!



### ◆ 里山情報バンク整理番号09-05-03

場所・面積：袖ヶ浦市堂谷

(車：東関東自動車道館山道木更津北ICから5分、約3km、)

(電車：JR久留里線東横田駅約2km)

面積：約0.33ha

内容：現地は比較的傾斜が緩く、作業はしやすいが、植栽後の下刈以降の施業は実施していないので、メダケ等が繁茂している状況です。

今後の作業はメダケの刈払いや除伐、倒木の整理等が中心となり、また、林産物については自由に採取可能と森林所有者から承諾を得ています。

さらに、当該地周辺の土地所有者もこの情報バンクに意欲的であり、今後拡大する可能性があります。(駐車場、トイレ、水道等については、土地所有者と相談が必要となります。)

# 山だ! 緑だ! フェスティバルだ~!

## 第4回 里山フェスティバルの ご案内

というわけで、本年も5月に里山フェスティバルを行います。  
千葉県では5月を里山月間、5月18日を「里山の日」として  
しております。

里山体験でおいしい空気を吸って、汗を流し、シンポジウム  
で里山をどうしていくか、よ~く考えていきましょう。

### ◎ 里山体験

#### ・申込方法

往復ハガキにコース名(1通につき1コースまで)、参加者全  
員(1通につき4人まで)の住所、氏名、年齢、電話番号、送迎  
バス利用の有無と乗車駅名、返信用あて先を書いて郵送してくだ  
さい。

#### ・締め切り

4月27日(金)消印有効(申込多数の場合は抽選となります。)

#### ・申込先・問い合わせ

#### ちば里山センター

住 所: 〒299-0265 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148

電 話: 0438-62-8895 FAX: 0438-60-1522

メール: [info@chiba-satoyama.net](mailto:info@chiba-satoyama.net) ホームページ: <http://www.chiba-satoyama.net>



2006年5月27日(土) 一宮町にて

回	コース名	日時	送迎バス集合場所	集合時間	定員
1	北総やまとの森で森林整備と 竹炭づくりコース(香取市)	5月12日(土) 10時~15時	柏市役所(JR常磐線・東武野田線柏駅東口か ら徒歩10分)	8時	80人
2	丸々1日山武林業体験コース(東金市)	5月13日(日) 9時30分~ 15時30分	NTT千葉支店前(JR千葉駅から徒歩5分) JR外房線大網駅前ロータリー JR東金線東金駅東口	8時 8時45分 9時15分	80人
3	おんだら山で里山づくりと 上総掘りに挑戦コース(南房総市)	5月20日(日) 10時~15時	NTT千葉支店前(JR千葉駅から徒歩5分) JR内房線君津駅南口	7時15分 8時15分	80人
4	都市近郊の里山で竹林整備と 谷津田観察コース(千葉市)	5月26日(土) 10時~15時	NTT千葉支店前(JR千葉駅から徒歩5分)	9時	80人
5	印旛沼水源域で里山づくりと 酒蔵見学コース(酒々井町)	5月27日(日) 9時30分~ 15時	JR成田線酒々井駅東口	9時	55人
6	養老溪谷で里山づくりと ハイキングコース(大多喜町)	5月27日(日) 10時~15時	NTT千葉支店前(JR千葉駅から徒歩5分) JR外房線茂原駅南口	8時 9時	50人

### ◎ 里山シンポジウム

- ・日時: 5月19日(土) 13時~17時
- ・会場: 城西国際大学(JR東金線求名駅から徒歩5分)
- ・定員: 400名(当日先着順となります。)
- ・講演: 「里山を活かす『なりわい』を考えよう」 講師: 小松光一氏(法政大学講師)
- ・問い合わせ

#### 里山シンポジウム実行委員会

電 話: 03-3824-6071 FAX: 03-3824-5980

メール: [minoruarao@tml.co.jp](mailto:minoruarao@tml.co.jp) ホームページ: <http://www.satochiba.jp>

### 事務局 から

ちば里山センター設立時から多大なるご支援をいただきましたみどり推進課のT室長、Hさん、Kさんがこのたび異動となりました。長い間お疲れさまでした。異動先でのご活躍をお祈り致します。